

ONE TEAM!

笠松小学校 第5学年
学年通信 学年懇談会号
令和3年 4月27日(火)

学年経営の重点について

学校教育目標

みんなのしあわせを考えて 豊かな心で ねばり強く やりぬく子
～よく考える頭 やさしい心 進んで働く手足～

学年目標

自分で考え正しく判断し、仲間とともにやりぬく子

経営の重点

よく考える頭	やさしい心	進んで働く手足
<input type="checkbox"/> 目的や意図に応じ、考えたことや、伝えたいことについて、的確に話す。 <input type="checkbox"/> 苦手なことに対しても、めあてをもって最後までやり抜くことができる。 <input type="checkbox"/> 目的をもって読書ができる。 <input type="checkbox"/> 何がよくて、何がいけないのかを考え、行動することができる。 <input type="checkbox"/> かチャ勉を意欲的に取り組む。	<input type="checkbox"/> 自分から進んで、気持ちのよいあいさつができる。(会釈、言葉遣い) <input type="checkbox"/> 相手の立場や気持ちを理解し、思いやりのある言動をとる。 <input type="checkbox"/> トイレのスリッパを揃えることができる。 <input type="checkbox"/> ルールを守り、仲間と折り合いをつけながら生活ができる。	<input type="checkbox"/> 歯磨きがきちんとできる。 <input type="checkbox"/> 掃除に進んで取り組み、最後まで丁寧にできる。 <input type="checkbox"/> 自分に任せられた仕事は、最後まで責任をもってやりきる。(委員会・係・当番活動・通学班・たてわり活動等) <input type="checkbox"/> 自分から進んで全校のために働く。

*笠小3つのじまん(あいさつ・掃除・生き物の世話)

具体的には、

【学習面】

《授業》

- 学習に落ち着いて取り組める環境をつくる。
 - ・学習に必要なもの、気が散って集中できないもの等を持って来ない。
- 失敗を恐れず、自分の意見を進んで話せるようにする。



【生活面】

- 当たり前のことが当たり前ができる。
 - ・提出物は期限までに出す。
 - ・学校・学級のルールを守る。
 - ・自分の仕事は責任をもって行う。
 - ・あいさつを自分から進んで行う。
 - ・名札をつけて生活をする。
 - ・学習に不必要なものは持ってこない。
- けじめのある生活ができる。
 - ・時間を意識して行動できる。
 - ・授業中と休み時間のけじめをつける。
- 仲間を大切にできる。
 - ・相手のことを思いやる。(相手の立場になって考える。)
 - ・仲間のよいところはみんなで認め合い、だめなことはだめと言える仲間づくり。



【家庭学習について】

学習の内容が多い学年です。保護者の皆さまの励ましをいただきながら、「自ら学ぶ」意識を高め、力を付けていきたいと思えます。学習時間としてのめあすは、50分(学年×10分)とされています。集中して取り組むことができるとよいです。

□毎日 ○音読 ○漢字ドリル or 計算ドリル 1つ を基本として出します。
(学習内容によって、変更することもあります)

□主に週末 かチャ勉 (プリントを出す場合もあります) を出します。

・かチャ勉は、週末に関わらず、いつでも進んで取り組んでよいです。5年生で取り組む例が書かれたプリントを配付しましたので、学習の参考にしてください。自分が苦手だと思うことや、得意なことを更に伸ばすために取り組むことができるとよいです。自分のために、自分で考えて学習する意欲を身に付けさせたいと考えています。始める前にはめあて、取り組んだ後には振り返りを必ず書きます。

※かチャ勉で練習問題 (自分で作った問題も) を行う時は、必ず答え合わせをして提出します。
(丸付けは、本人が行っても構いません。)

□漢字ドリル・計算ドリルの進め方

繰り返しの練習で定着を図りたいと考えますので、2回練習を目標としています。

漢字ドリル・計算ドリルを終えたら、必ず答え合わせをするようにします。間違えたまま覚えてしまうことのないようにするためです。問題形式の時には、全問を解いた後に答え合わせをし、正しい漢字を下に練習できるとよいです。計算ドリルもまちがいがあった場合には、最後にもう一度直すように指導しています。確実に力を付けたいと思いますので、ご家庭でも声かけをしていただけるとありがたいです。

□音読

「継続は力なり」です。長い物語などは、学習している場面だけでもよいので、毎日続けると力が付きます。音読の内容については、社会や、理科など他教科でも大丈夫です。土日でも1か月間休まず取り組めた子には、音読カードの表紙にご褒美シールを貼る予定です。

★思春期を迎える子ども達への接し方のポイント★

① **何がよくて何がいけないのかを明確にする。**

子どもは何かと理由をつけて自分に甘くなりがちです。それに対し、「なぜそれをやるのか」「なぜその行為が間違っているのか」「それをすることがどんな価値があるのか」「この先のどんなことに必要な力なのか」などを、子どもにきちんと話して聴かせることが大切です。

② **できたことは、きちんとほめてあげる。**

体が大きくなり、精神的にも成長する時期ですが、まだまだ大人ではありません。周りの様子がよく見えるようになるこの時期、子どもたちは多感になり、自己肯定感が低下する傾向があります。きちんとできたことや前よりもよくなったことに関しては、おおいにほめてあげたいものです。反抗期に入ると、素直に喜ばない態度が出ることもありますが、心の中ではやはり嬉しいものと思います。良いことや努力していることについては是非価値付けていきたいです。

★「ほめる視点」あれこれ…★

- (1) よい行い、広めたい言動についてすかさずほめる。
- (2) 今までと今の違いを具体的にほめる。
- (3) こういう人間になってもらいたいという願いをもってほめる。
- (4) ほめながら次の目標を示し励まし、そのやり方を具体的に教える。
- (5) 次の行動を引き出すようにほめる。
- (6) 人間に対する優しい言動をほめる。
- (7) 状況を切り開こうとする努力をほめる。
- (8) 結果よりその過程をほめる。
- (9) 何がどれだけ価値を含み、どんな生き方を提示しているかを具体的にほめる。
- (10) その事実に学級の仲間からまたは班の仲間から感想や思いを語らせる。
- (11) ほめられた行為、事実を学級の財産にしていく。
- (12) 否定的な中であっても、よいことを探してほめる。
- (13) うまくいかないときの評価も重要になってくる。